

一般社団法人 日本医学会連合

<2025 年度>

事業報告書

決算報告書

監査報告書

自 2025 年 4月1日
至 2026 年 3月31日

一般社団法人日本医学会連合 2025 年度事業報告

I. 概要

日本医学会連合は定款第 3 条において、「医学に関する科学及び技術の研究促進を図り、医学研究者の倫理行動規範を守り、わが国の医学及び医療の水準の向上に寄与することを目的とする。」と定めている。定款第 4 条において、目的を達成するために以下の事業を実施することとしている。

- (1) 医学及び医療における研究・教育の推進と実践
- (2) 医学及び医療に関する情報の収集と発信及びシンポジウム等による啓発
- (3) 日本医学会総会をはじめとする日本医学会事業の推進
- (4) その他目的達成上必要な事業

定款に定めた目的および事業を達成するため、各種調査、要望書、提言の発信活動等を実施した。

II. 2025 年度に実施した事業

2025 年度に実施した事業は以下のとおりである。

1. 研究・教育の推進と実践に関する事業

1) 研究力強化と医師偏在の是正に向けた取り組み

シンポジウム「研究力強化と医師偏在の是正に向けたこれまでの取組みと今後について」（2025 年 4 月 30 日）を開催した。2024 年 11 月に実施した地域医療の向上と研究力の向上に関する意識調査結果の報告、「地域医療・医師偏在を巡る最近の動向」をテーマに迫井正深厚生労働省医務技監による講演、「研究力向上に向けた取組について」をテーマに松浦重和文部科学省大臣官房審議官（研究振興局及び高等教育政策連携担当）による講演、それぞれの立場における現状と課題として、基礎医学、社会医学、臨床医学（若手世代、中堅世代、シニア世代）の観点から講演を行い、意見交換を行った。

2) 医学系研究力向上への取組み

「わが国の医学研究力の向上に向けての要望書」をとりまとめ、文部科学省高等教育局長、研究振興局長に提出した（2025 年 4 月 17 日）。また、要望内容を踏まえて議論を深めるため、「医学系研究力向上に向けた今後の戦略を考える」をテーマに 2025 年度加盟学会連絡協議会（2026 年 1 月 29 日）を開催した。

3) 日本医学会連合 Rising Star リトリートの開催による研究力向上と人材育成

基礎部会 15 学会、日本臨床腫瘍学会（臨床系学会参加枠）から新進気鋭の若手研究者（Rising Stars）を招集し、研究発表を通じて相互の交流・連携を深め、研究を推進するため「COVID からの復活 ～医学研究の挑戦～」をテーマに第 4 回 Rising Star リトリート（2025 年 5 月 29～30 日、愛知）を開催した。特別講演演者として菅裕明先生（東京大学大学院理学研究科化学専攻生物有機化学教室教授）を招聘し、「Pseudo-

natural peptides and neobiologics for therapeutic innovation」をテーマに講演を行った。

4) 社会部会リトリートの開催による研究力向上と人材育成

社会部会 20 学会のほか、臨床内科部会、臨床外科部会の各部会の参加枠を設け、社会医学の将来を担う若手人材の育成を推進するため「社会医学研究と研究者の”芽”を育てる～分野を超えた関係づくり、共同研究に向けた私のロードマップ～」をテーマに第 4 回社会部会リトリート（2026 年 2 月 7～8 日、川崎）を開催した。グループ討論や発表を通して、異分野・他分野の研究者と交流した。特別講演演者として、井上浩輔先生（京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野教授）、玉腰暁子先生（北海道大学大学院医学研究院社会医学分野公衆衛生学教室教授）の 2 名を招聘し、これまでの共同研究の経緯および研究者としてのキャリアを紹介するとともに、若手研究者へのメッセージを含む講演を行った。

5) 加盟学会間の分野横断的な連携・交流による研究力向上の推進

加盟学会間の分野横断的な連携・交流を深めるため、2025 年度は日本臨床薬理学会、日本生化学会、日本生理学会、日本栄養・食糧学会、日本小児循環器学会、日本衛生学会による連携フォーラムの開催を支援した。

6) 加盟学会間の領域横断的な活動の支援による研究力向上の推進

加盟学会に広く共通する課題を個別の学会を超えて領域横断的に検討し、その成果を広く発信するため、複数の加盟学会による領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）の支援を実施した。2025 年度は 2024 年度に採択された 3 事業「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進（代表学会：日本薬理学会）」、「『いつまでも健康で美味しく食べる』ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動（代表学会：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）」、「薬剤の適正使用と『健康』に対する理解促進のための啓発活動（代表学会：日本糖尿病学会）」を支援した。また、2025 年度は「多学会連携による慢性疾患患者の挙児希望を叶えるための横断的指針の改訂と関連学会への普及（代表学会：日本産科婦人科学会）」、「各臨床領域・疾患別のミニマム項目セットの策定による臨床データ品質向上活動（代表学会：日本医療情報学会）」、「持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と公平な制度設計に寄与する領域横断的データサイエンス研究事業（代表学会：日本疫学会）」の 3 事業を採択した。

7) 医療 DX の推進

医療 DX 推進委員会において、近年の医療データ二次利用や AI に関する動向を共有し、医療 DX に関する課題・論点を整理した。また、日本医学会連合における医療 AI に関する検討の必要性について検討した。

8) 新型コロナウイルス感染症による影響の解明に向けた調査研究の情報推進

2021 年より厚生労働行政推進調査事業として、新型コロナウイルス感染症による影響の解明に向けた調査研究を進め、2025 年度は基礎・社会・臨床内科・臨床外科の各部会においてこれまで行ってきた研究活動の成果を公表する場として「日本医学会連合新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた影響調査に関する研究推進委

員会及び厚労科研費を用いた研究に関する合同発表会」(2025年5月20日)を開催した。

9) 国内学術団体との連携

- ① 日本専門医機構、日本医療安全調査機構、日本医学教育評価機構、社会医学系専門医協会に社員として参加した。
- ② 日本学術会議の協力学術研究団体として「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」に参加し、連携を深めた。
- ③ CST 事業法人設立準備委員会に参加し、法人設立に向けた検討に参加した。
- ④ 日本医学会連合、日本歯科医学会連合、全国医学部長病院長会議、歯科大学学長・歯学部長会議、篤志解剖全国連合会、日本解剖学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、日本脳神経外科学会、日本救急医学会、日本口腔外科学会、日本産科婦人科学会、日本形成外科学会、日本麻酔科学会、日本泌尿器科学会、日本口腔インプラント学会が共同し、「臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明」を2025年9月5日に発出した。

10) 海外学術団体との交流

Formosan Medical Association (FMA・台湾) の第118回学術講演会(2025年11月8、9日)に門脇孝会長が出席し、基調講演を行った。また、2025年12月25日にFMAの呉明賢院長、李宜家副秘書長、黃博浩執行秘書らが来日し、虎の門病院において門脇孝会長、高橋雅英副会長が対応し、交流を深めた。

2. 医学・医療に関する情報発信とシンポジウム等の開催による啓発

1) 研究倫理に関する情報発信と啓発

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学会連合利益相反委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会が合同で「変貌を遂げる研究倫理のアップデートとその啓発」をテーマに第9回研究倫理教育研修会(2025年5月1日)を開催した。

2) 診療ガイドラインの質及び信頼性の確保と普及・啓発の仕組み作り

第3回診療ガイドライン統括委員長会議の開催を計画した(2026年8月開催予定)。

3) 学術活動におけるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進

「男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査報告書2024」の調査結果を公表した。加盟学会を対象にしたジェンダー意識に関するアンケート調査、シンポジウム等の開催について計画した。また、多様性・公平性・包摂性の推進が一層重要視されている状況を踏まえ、委員会名称を「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進委員会」に変更した。

4) 医療及び医学研究における労働環境と働き方に関する検討

労働環境・診療科偏在検討委員会において各診療科の現状について情報共有を行った。

5) 日本医学会連合の積極的な情報提供の実施

2025年3月にリニューアルを実施した公式ウェブサイトのさらなる改善を行った。

6) アウトリーチ活動

2023 年 6 月に公開したゲノム編集解説ウェブサイトを教材として、2024 年度に引き続き、高校生のためのウェブサマースクール「ゲノム編集ってなに？」（2025 年 8 月 2 日）を開催し、全国から 148 名が参加した。

7) 関連団体と連携し、学術研究の啓発と発展に資する活動を推進した。

3. 日本医学会総会をはじめとする日本医学会事業の推進への協力

2027 年 4 月開催予定の第 32 回日本医学会総会の準備をはじめとする日本医学会の事業推進に協力した。

III. 組織の状況

1. 会員数

145 学会（2026 年 3 月 31 日）

2. 2025 年度新規入会状況

1 学会 日本小児内分泌学会

3. 総会開催

2025 年 6 月 27 日に 2025 年度定時総会を開催し、2024 年度事業報告及び決算、会費徴収、役員選任等を審議決定した。2026 年 2 月 25 日に臨時総会を開催し、新規加盟学会を審議決定した。

4. 役員

2025 年 6 月 27 日に 2025 年度定時総会を開催し、理事 28 名、監事 4 名を選任した。引き続き新任理事による理事会を開催し、会長に門脇孝を選定するとともに、副会長に磯博康（社会部会）、高橋雅英（基礎部会）、北川雄光（臨床外科部会）、南学正臣（臨床内科部会）を選定した。

貸借対照表
(2026年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	119,298,807	127,092,723	△ 7,793,916
仮払金	5,510	12,208	△ 6,698
前払費用	485,431	246,281	239,150
未収入金	0	3,659,139	△ 3,659,139
流動資産合計	119,789,748	131,010,351	△ 11,220,603
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
受取研究費資金	0	0	0
特定資産計	0	0	0
(2) その他の固定資産			
工具器具備品	0	0	0
減価償却累計額	0	0	0
預託金	0	0	0
その他の固定資産計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資 産 合 計	119,789,748	131,010,351	△ 11,220,603
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,091,294	6,172,110	△ 4,080,816
預り金	748,037	712,367	35,670
流動負債合計	2,839,331	6,884,477	△ 4,045,146
2. 固定負債			
引当金	0	0	0
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	2,839,331	6,884,477	△ 4,045,146
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	116,950,417	124,125,874	△ 7,175,457
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	116,950,417	124,125,874	△ 7,175,457
負債及び正味財産合計	119,789,748	131,010,351	△ 11,220,603

2025年度年度損益計算書
(正味財産増減計算書)

一 般 会 計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1、経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	61,549,100	61,058,800	490,300
受取補助金	0	400,000	△ 400,000
雑収益	276,506	594,531	△ 318,025
受取利息	276,506	83,486	193,020
雑収益	0	511,045	△ 511,045
経常収益計	61,825,606	62,053,331	△ 227,725
(2) 経常費用			
事業費	38,889,533	56,320,150	△ 17,430,617
旅費交通費	1,463,411	2,149,478	△ 686,067
諸謝金	330,000	391,000	△ 61,000
助成費	9,623,834	8,759,370	864,464
賃借料	404,009	2,957,658	△ 2,553,649
会議費	70,552	18,303	52,249
通信運搬費	604,633	420,019	184,614
消耗品費	20,950	24,966	△ 4,016
印刷製本費	0	125,125	△ 125,125
図書・文献購入費	487,764	515,327	△ 27,563
人件費	13,170,065	19,116,560	△ 5,946,495
委託費	12,703,315	21,792,364	△ 9,089,049
支払手数料	11,000	30,580	△ 19,580
租税公課	0	19,400	△ 19,400
雑費(予備費)	0	0	0
管理費	30,111,530	31,310,390	△ 1,198,860
旅費交通費	1,184,316	1,238,564	△ 54,248
諸謝金	0	0	0
保険料	118,543	23,495	95,048
賃借料	2,932,598	2,910,410	22,188
会議費	14,552	30,743	△ 16,191
通信運搬費	2,499,933	2,375,713	124,220
消耗品費	986,687	1,517,779	△ 531,092
消耗什器備品費	298,600	688,900	△ 390,300
リース料	935,880	935,880	0
修繕費	185,988	156,929	29,059
印刷製本費	28,768	24,453	4,315
図書・文献購入費	36,484	66,520	△ 30,036
人件費	13,099,267	13,069,814	29,453
教育訓練費	58,300	96,800	△ 38,500
委託費	2,916,874	3,264,671	△ 347,797
諸会費	4,400,000	4,400,000	0
渉外費	0	0	0
支払手数料	291,796	416,935	△ 125,139
租税公課	122,944	92,784	30,160
雑費(予備費)	0	0	0
経常費用計	69,001,063	87,630,540	△ 18,629,477
当期経常増減額	△ 7,175,457	△ 25,577,209	18,401,752
2、経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	1	△ 1
固定資産除去損	0	1	△ 1
当期経常外増減額	0	△ 1	1
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 7,175,457	△ 25,577,210	18,401,753
一般正味財産期首残高	124,125,874	149,703,084	△ 25,577,210
一般正味財産期末残高	116,950,417	124,125,874	△ 7,175,457
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	116,950,417	124,125,874	△ 7,175,457

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
 - (1) 固定資産の減価償却の方法
 - ・固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。
工具器具備品…定率法
 - (2) 消費税等の会計処理
 - ・消費税等の会計処理は、税込方式によっている。
2. 特定資産の当期の増減額及び残高は、次のとおりである。
該当なし
3. 担保に供している資産
該当なし
4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高
貸倒引当金の計上をしていない
5. 保証債務等の偶発債務
該当なし
6. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価および評価損益
該当なし
7. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高
該当なし
8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
該当なし
9. 関連当事者との取引の内容
該当なし
10. 重要な後発事象
該当なし

附属明細書

1. 特定資産の明細
財務諸表の注記に記載のため省略
2. 引当金の明細
該当なし

監査報告書

2026 年 5 月 27 日

一般社団法人日本医学会連合
会長 門脇 孝 殿

一般社団法人 日本医学会連合

監事 北 潔

監事 荻田 香苗

監事 矢富 裕

監事 森 正樹

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの事業年度における一般社団法人日本医学会連合の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の状況等の報告を受け、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しています。

以上